

今回は、新型コロナウイルス感染症対策の中で行われた 地歴・公民科の取り組みに関し、お伝えいたします。

◇ その1 自宅待機期間の課題

自宅待機期間にHPを使用して、各学年各科目の課題や取り組むべき学習について指示を行った。適宜 Microsoft Forms を活用して生徒からの質問を受け付け、疑問点を解消できるような努力も行った。しかし、生徒の課題取組状況や生徒の理解度をその都度把握することは難しく、一方向的な取組にとどまってしまったという反省点がある。

◇ その2 web会議システムを利用したオンライン学習支援

オンライン学習支援が実施できる体制が整ったのちは、各教員が生徒の見やすさ、理解のしやすさを考慮し、より良い実施方法を模索した。書画カメラを使って教科書を投影し、生徒がオンライン学習支援を聞きながら教科書を読むことが出来るような形態や、或いは PowerPoint を直接生徒の手元の機器に投影し、教員と同じ画面を共有しながら講義に参加できるような形をとった。

オンライン学習支援においても、適宜生徒からの質問を受け付け、投影する際の文字の大きさ、話の速度、PowerPoint で使用する色などをその都度変更していった。



◇ その3 対面授業再開後の対応

オンライン学習支援では、通常の授業に比べて進度が早く、機器の関係でスムーズに視聴できなかった生徒もいることから、生徒の定着度に心配が残った。オンライン学習支援中は、生徒の定着度を確認する機会もなかったため、対面授業再開後は定期的に小テストを行い、生徒の理解度を確認している。こうした活動が行えるようになったことや、生徒からの質問にその場で対応できるようになったことで、生徒がどの点を疑問に感じているかをより正確に把握し、対応できるようになった点は非常にありがたいと感じている。

また、オンライン学習支援で通常よりも進度を早めることが出来たことから、今後は授業内で復習を行い、演習を丁寧に行う時間が取れると考えている。

◇ その4 現状と今後の課題

対面授業再開後の現在も、グループワークなどが中々行えず、対面授業も一方向的なものになりやすくなっている点を課題と感じている。

また、オンライン学習支援によって通常の対面授業よりもかなり早く教科書の内容を進めることが出来たが、今後の模試や受験などを考えていった際に対面授業と比べて生徒が十分に内容を理解できなかったのではないかと不安を感じている。

今後は、密を避けるなど感染症対策に十分配慮したうえで、以上のような課題や不安を解消できるような授業の在り方を研究していきたい。